城郭の歴史 History

天文6年(1537)
築城

天文6年(1537)、織田信長の叔父、織田信康によって木之下城より城郭を移して築城しました。

永禄8年(1565)
織田信長が攻略

織田信長は従弟の犬山城主・織田信清と対立し、一族の領地争いで犬山城を攻略しました。

天正9年(1581)
織田勝長入城

織田信長の四男・勝長が城主となりました。勝長は天正10年(1582)、「本能寺の変」で父・信長と運命を共にしました。

天正12年(1584)
豊臣秀吉入城

天正12年(1584)、豊臣秀吉対徳川家康・織田信長の次男信雄との間で「小牧・長久手の戦い」がはじまりました。当時の犬山城主は織田信雄の家臣中川定成でしたが伊勢に出陣していたため不在であり、秀吉軍の池田恒興が木曽川をわたり城内に侵入し、落城しました。後に秀吉が入城しました。

豊臣秀吉

慶長5年(1600)
関ヶ原前哨戦

豊臣秀吉の死後、徳川家康(東軍)と石田三成(西軍)が対立しました。犬山城は関ヶ原の戦いの前哨戦で西軍方の武将たちが退去し、東軍に占拠されました。

元和3年(1617)
成瀬氏 犬山城拝領

元和3年(1617)、徳川家康の重臣成瀬正成が拝領。このとき天守に改良が加えられ、現在の姿ができたといわれています。以後、成瀬家が幕末まで城主を務めることになります。

成瀬正成
(白林寺蔵)

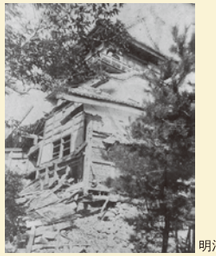
明治6年(1873)
天守以外一部取り壊し

明治6年(1873)、天守以外の一部の建物は取り壊されたり、払い下げされたりしました。

明治初年頃の犬山城(個人蔵)

明治24年(1891)
濃尾大地震で天守半壊

明治24年(1891)、マグニチュード8.4の「濃尾大地震」によって天守は半壊しました。同28年に修理を条件として愛知県から旧藩主の成瀬家に譲与され、成瀬家をはじめ多くの人々の支援により、無事修復されました。


明治24年の破損状況

昭和10年(1935)
国宝に指定される

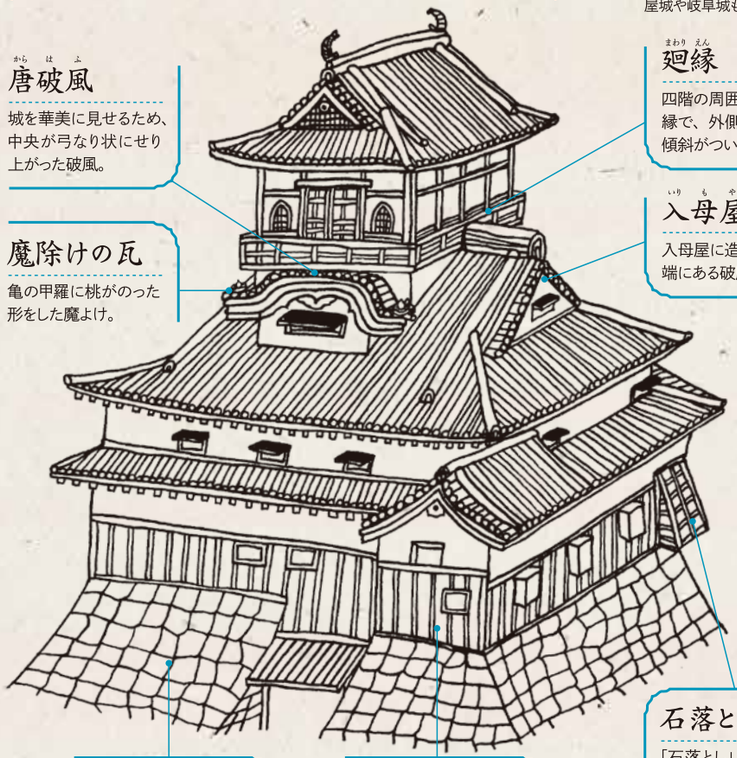
昭和10年(1935)、天守は国宝に指定されました。犬山城天守は国宝四城(犬山城、松本城、彦根城、姫路城)の中で最も古いとされています。

昭和10年頃の天守

昭和40年(1965)
解体修理完了

昭和36年(1961)から4年にわたり天守の解体修理が行われました。全国唯一の個人所有の城として保存されてきましたが、平成16年(2004)、財団法人犬山城白帝文庫の所有となり、犬山市が管理を行っています。

天守の構造 Structure



唐破風
城を華美に見せるため、中央が弓なり状にせり上がった破風。

魔除けの瓦
亀の甲羅に桃がのった形をした魔よけ。

天守の石垣
自然石をそのまま積み上げた石垣で、「野面積」と呼ばれる。

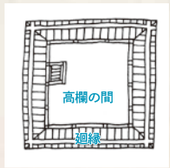
付櫓
天守の入り口が敵兵に破られないように、側面から攻撃を加えて防備する。

廻縁
四階の周囲に廻された縁で、外側に向かって傾斜がついている。

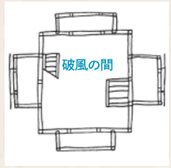
入母屋破風
入母屋に造った屋根の端にある破風。

石落とし
「石落とし」は石垣より突出している防備で、石を落として石垣からの侵入者を防いだ。

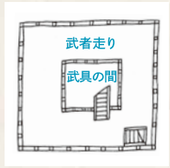
天守からの眺め
眼下に濃尾平野や木曽川の絶景を一望できる。対岸は岐阜県で当時の美濃国。晴天の日は名古屋城や岐阜城も望むことができる。



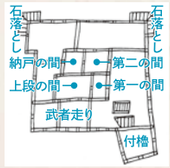
四階(望楼)
回廊は成瀬氏による増築とされ、高欄と廻縁がまわる望楼となっている。



三階
唐破風は成瀬氏によって増築されたといわれている。東西には入母屋破風が施されている。

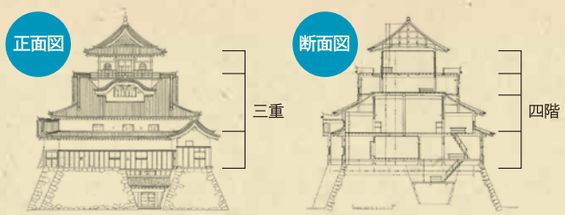


二階
中央は武具の間で武具棚が備えられ、その周囲を武者走りが巡っている。



一階
中央部に第一の間、第二の間、上段の間、納戸の間の四室に分けられ、それらを武者走りが取り巻いている。

地下一、二階(穴蔵)
天守の出入口があり、天守を支える石垣や太い梁を見ることができる。



外から見ると三重、中は四階の三重四階の構造です

名称	国宝 犬山城
別名	白帝城
立地	平山城
天守構造	望楼型・三重四階地下二階・複合式天守
天守の高さ	約19m
築城年	天文6年(1537)
築城者	織田信康(織田信長の叔父)
廃城年	明治4年(1871)
指定文化財	天守(国宝)
主な城主	織田氏・池田氏・石川氏・成瀬氏